

をしてなア……………」

『アツ。チョツ、チョツ。鳥渡待つとくれやす。……貴方はん其時、私を二階から突き落してやムりまへなんだか』

『落したがナ〜。夫れから俺しは皆を連れて北へ飲み直しに往かふちウので、大勢連れて土橋まで來ると、頬被りした……』

『追ひ剝やおまへんか、夫れが私いでしたやろ。へエ左様々々。夫れから又候御異見申した處が、貴方はんが豪ふ怒て、雪駄で散々私の顔を叩いた上、とふ〜額を割りなはつた。……それから摺た揉だの末が刀が鞆走つて……………』

『夫れや。夫れや。一寸も違はん……』

『ア、若旦那。能ふ其夢を見とくなはつた。日頃から云ひ度い〜と思ふてた一心が、チャンと夢になつて通じて呉れたのでおます』

『番頭ツ。大きに有難ふ。此んな極道者でも主人やと思やこそ、能ふこそ其處まで想ふて呉れてやつた。……………ア、ア、併し夢で宜かつたなアあれが若し夢やなかつたら……………。いや俺し見たいな極道は假例殺されても自業自得や。けれどもお前見たいな忠義な人を、主殺しと云ふ汚らはしい罪名で、繩附きにせにや成らん處やつた。ア、怖わやの〜。』

『若旦那ツ。嬉し御座ります。其お一言で此番頭、御當家千萬年の御繁昌が眼に見える様で、こんな有難い事は御座りまへん……したがア怖ろしい夢で御座りました、主殺しと申しますと豪い罪で御座りますやろな。』

『まア昔なら逆磔。今でも死刑は免れんやろなア』

『ウワン。……………』

『コレ定吉何ふしたんやいな。番頭見て遣り、可愛いもんや無いか。お前が平常目を掛けて遣るもんやさかい、今の死刑で吃驚して泣いてよるね。……コレ定。心配せえでも宜え。今のんは夢の話や番頭は何ないも成らへん。』

『イエ、番頭はんの事で泣いてると違ひまんね。イヒツ。イヒツ。今重罪で死刑や云ひなはつた。イヒツ。ほしたらうちのお父ツあんな何様なる思ふて、心配で仕様がおまへん』

『フーン。するとお前のお父ツあんな』

『へエ、大和のまんざいだすね』